

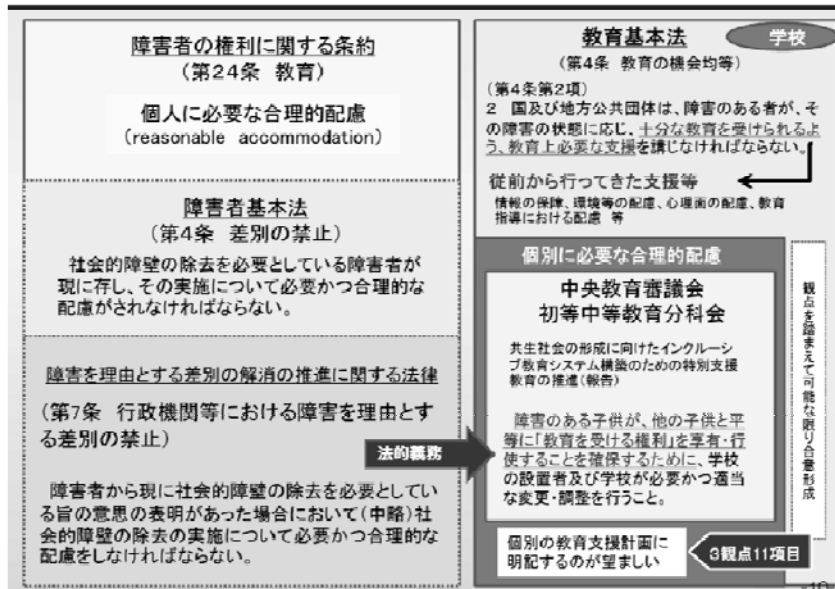
共生社会の形成に向けた インクルーシブ教育システム ～合理的配慮・基礎的環境整備編(1)～

愛媛県総合教育センター
相談支援部 特別支援教育室

研修の内容

中教審報告における（ ）とは、障がいのある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、学校の設置者及び学校が（ ）を行うことであり、障がいのある子どもに対し、その状況に応じて、（ ）とされるものであり、学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、（ ）ものと定義されている。
合理的配慮の基礎となる環境整備を（ ）と呼ぶ。

法令等における合理的配慮について～合理的配慮の整理～



※「平成27年度 合理的配慮普及推進セミナー」(文部科学省) 資料より

合理的配慮について～中教審報告より～

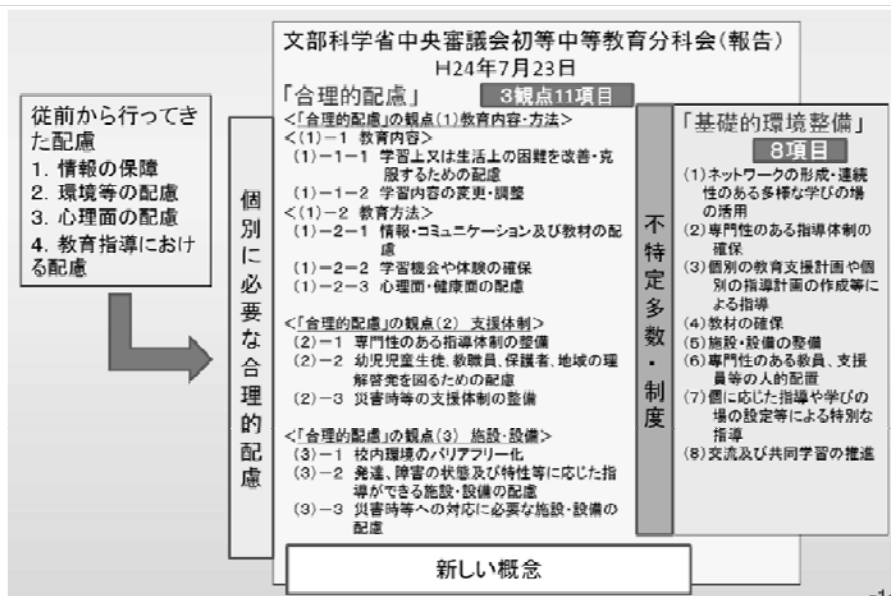
障害のある子どもが、他の子どもと平等に「教育を受ける権利」を享有・行使することを確保するために、

- ① 学校の設置者及び学校が必要かつ適当な変更・調整を行うことであり、
- ② 障害のある子どもに対し、その状況に応じて、(中略) 個別に必要とされるものであるであり、
- ③ 学校の設置者及び学校に対して、体制面、財政面において、均衡を失した又は過度の負担を課さないもの

合理的配慮の否定は障がい理由とする差別に当たる。

Q これまで各学校において、
行ってきた配慮と、合理的配
慮はどのように違いますか。

従前から行ってきた配慮と報告における合理的配慮



※「平成27年度 合理的配慮普及推進セミナー」(文部科学省)資料より

「合理的配慮」 3 観点11項目

観点① 教育内容・方法

<①－1 教育内容>

- ①－1－1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮
- ①－1－2 学習内容の変更・調整

<①－2 教育方法>

- ①－2－1 情報・コミュニケーション及び教材の配慮
- ①－2－2 学習機会や体験の確保
- ①－2－3 心理面・健康面の配慮

※中教審報告より

観点② 支援体制

- ②－1 専門性のある指導体制の整備
- ②－2 幼児児童生徒、教職員、保護者、地域の理解啓発を図るための配慮
- ②－3 災害時等の支援体制の整備

観点③ 施設・設備

- ③－1 校内環境のバリアフリー化
- ③－2 発達、障害の状態及び特性等に応じた指導ができる施設・設備の配慮
- ③－3 災害時等への対応に必要な施設・設備の配慮

※中教審報告より

合理的配慮の事例（学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮 別表1）一部抜粋

障害種	合理的配慮の例
自閉症・情緒障害	自閉症の特性である「適切な対人関係形成の困難さ」「言語発達の遅れや異なった意味理解」「手順や方法に独特のこだわり」等により、学習内容の習得の困難さを補完する指導を行う。（動作等を利用して意味を理解する、繰り返し練習をして道具の使い方を正確に覚える 等）

※中教審報告より

自閉症の子どものつまずき例 「指示語の意味理解」

東京書籍 小学校3年生（下）
「サーカスのライオン」

「その夜ふけの『その』は何をさしていますか？」の発問に

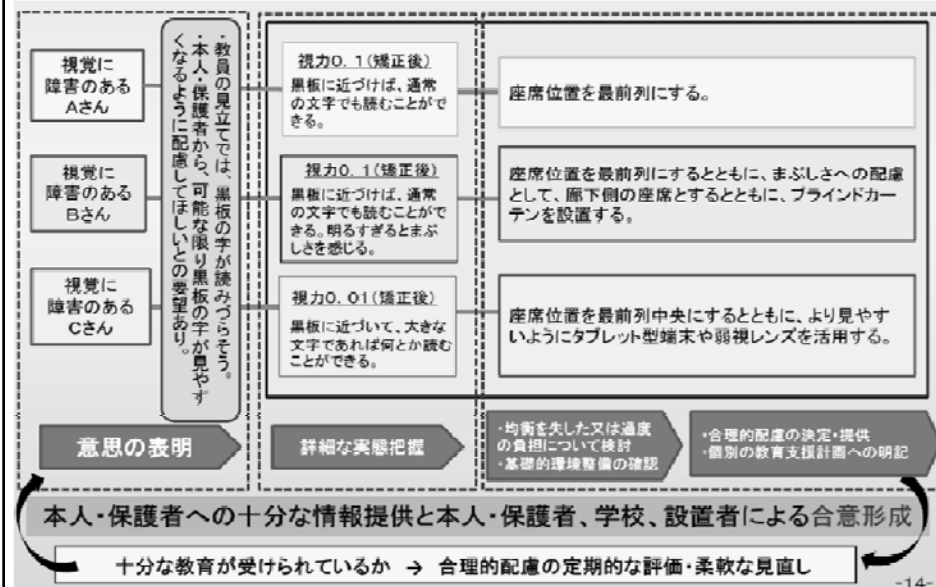
3年生のA児は、「こそあど言葉です」との回答。

カスガとある。見物人があぶる。が、びんが、わしは火の輪を五つにわけてやるう。」

その夜ふけに、サイレンが鳴りだした。

※発達障害教育情報センター研修講義-ver. 4-より

合理的配慮の提供のプロセス（視覚障がいの例）



※「平成27年度 合理的配慮普及推進セミナー」（文部科学省）資料より

法令等における基礎的環境整備について

障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律 第5条（社会的障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮に関する環境の整備）

行政機関等及び事業者は、社会障壁の除去の実施についての必要かつ合理的な配慮を的確に行うため、

- ①自ら設置する施設の構造の改善及び設置の整備、
- ②関係職員に対する研修、
- ③その他の必要な環境の整備に努めなければならない。

法令等における基礎的環境整備について

障害のある子どもに対する支援については、（中略）国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境の整備をそれぞれ行う。これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。

※中教審報告より